



**幸手市人口ビジョン
幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版**

平成 28 年 3 月

発行：幸手市

編集：総務部政策調整課

住所：〒340-0192 埼玉県幸手市東 4-6-8

電話：0480(43)1111（代表）

ホームページ：http://www.city.satte.lg.jp/

幸手市人口ビジョン 幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略

概要版



幸手市のマスコットキャラクター
さっちゃん

幸手市人口ビジョンとは

幸手市人口ビジョン（以下、「人口ビジョン」という。）とは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を十分に踏まえながら、本市における人口の現状分析を行い、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。

◆対象期間

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の期間を踏まえ、45年後の2060年（平成72年）までとします。

◆目指すべき将来の方向

- その1 若者が住みたいまち幸手（若者の定住促進）
- その2 子どもを生み育てたいまち幸手（少子化、子育て対策）
- その3 魅力をアピールできるまち幸手（情報発信）

◆人口の将来推計と人口目標

推計人口

コーホート要因法により、2060年（平成72年）の人口は、33,546人と推計しました。

なお、合計特殊出生率は、2030年（平成42年）に1.6、2040年（平成52年）に1.8、2050年（平成62年）に2.07を実現すると仮定し、社会移動は、2025年（平成37年）からゼロ（均衡）で推移すると仮定しました。

人口目標

本市では、自然動態と社会動態を改善させることにより、2060年（平成72年）の人口目標を34,000人とします。

幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

◆総合戦略の位置づけ

国では、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、2014年（平成26年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。

本市においても、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」などを勘案しながら、今後5か年の政策目標・施策の方向を提示する「幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」という。）を策定することとしました。

なお、「総合戦略」は、「人口ビジョン」を踏まえて策定しています。

◆計画期間

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間を踏まえ、2015年度（平成27年度）から2019年度（平成31年度）までの5か年とします。

総合戦略の体系

本総合戦略においては、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を勘案するとともに、「人口ビジョン」の方向性や各種調査結果を踏まえながら、2060年（平成72年）の人口目標34,000人に向けて、4つの基本目標を定めます。

基本目標、施策、課題との関係



基本目標 1 安定した雇用を創出する

基本的方向

若い世代の就職に伴う転出に歯止めをかけるためには、市内での雇用機会を拡充することが必要です。このため、市内企業と連携し、安定した雇用の創出を目指します。

また、本市の商工業を支えている中小企業に対して、企業競争力の向上や安定した経営の実現に向けた支援を行うことにより、地域経済の活性化を図ります。

数値目標

項目	当初値	目標値
市内従業者数	18,379 人	19,100 人

産業団地進出企業との連携と市内事業者への支援

施策 1

現在、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）幸手インターチェンジ東側地区において、埼玉県企業局との共同事業により、幸手中央地区産業団地整備を進めています。この産業団地への立地企業と連携し、市民の雇用促進を図ります。

また、既存の市内事業者及び新たに市内で起業する事業者に対しては、商工会と協力して、国・埼玉県の制度等を有効に活用し、経営力向上への支援をします。

施策 2

市内雇用の促進

若者などの雇用の定着を促すとともに、女性や高齢者など働く意欲の高い人への就職を支援し、市内における雇用の拡大を図ります。

施策 3

地域農業の振興

農業経営に対する支援、後継者の育成・支援、新たな担い手の育成など、安定して農業が続けられる基盤を整えます。また、幸手産特別栽培米を積極的にPRしていくとともに、幸手産農産物を活用した付加価値の高い農産加工品の研究開発を支援します。

重要業績評価指標一覧（KPI）

項目	当初値	目標値
幸手中央地区産業団地における従業者数	—	700 人
就労支援セミナー・相談会の実施回数	—	累計5回
認定農業者数	23 経営体	30 経営体
特別栽培米作付面積	2,984 a	3,350 a

基本目標 2 新しいひとの流れをつくる

基本的方向

市内には、権現堂堤や日光街道幸手宿をはじめ、さまざまな観光・歴史・文化資源があります。

これらの資源を有機的につなげることにより、幸手市を訪れた人が、まちなかの回遊を楽しむことができる基盤を充実させ、交流人口の増加を目指します。

また、定住促進に向けて、「市の顔」である駅舎の整備や、市の魅力を広く発信できるシティセールス等を推進します。

数値目標

項目	当初値	目標値
権現堂堤年間観光客数	188.5 万人	195 万人

施策 1

幸手市の特性を活かした観光振興

主要な観光資源である権現堂堤などの市内の名所、史跡と商店街、公園、幸手駅などを結ぶ観光ルートを有機的につなげ、交流人口の増加を目指します。

施策 2

駅周辺の整備

市の玄関口にふさわしい街並みを形成し、市のイメージアップを図るため、東西自由通路の整備に伴う幸手駅の橋上化や幸手駅西口土地区画整理事業地区内の整備を推進します。

施策 3

移住・定住の促進

市内への定住促進を図るため、3世代の同居・近居の支援や住みリフォームの支援をします。また、利活用可能な空き家の登録・情報提供を行う、空き家バンクを設置します。

施策 4

シティセールスの推進

幸手市の魅力を広く市内外に発信することで、交流人口や定住人口の増加を目指します。また、市民には、幸手を「もっと」知ってもらうことにより、地域への愛着を深め、定住化を促進します。

重要業績評価指標一覧（KPI）

項目	当初値	目標値
観光協会ホームページアクセス数	59.8 万件	65 万件
東西自由通路及び幸手駅舎の整備進捗率	1.8%	100%
幸手駅西口土地区画整理事業の整備進捗率	2.3%	33.6%
しあわせ3世代ファミリー定住支援事業の利用者	—	累計18人
人口の社会動態の減少数	274 人	137 人
市ホームページの年間アクセス件数	178,696 件	190,000 件

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本的方向

子育て世代の定住化を促進するとともに、合計特殊出生率を高めることにより人口の自然増を実現するためには、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることができる環境を整える必要があります。

そのため、結婚から子育てまで切れ目のない支援を行い、質の高い子育て環境・教育環境等を提供することにより、「子育て日本一」の自治体を目指し、若い世代の定住を促進します。

数値目標

項目	当初値	目標値
合計特殊出生率	1.06	1.21

施策 1 出合いの機会の創出

若い世代の結婚の希望をかなえるため、市の地域資源を有効に活用した婚活交流イベントを開催し、男女の出合いの場を提供します。

施策 2 産前・産後等のサポート体制の充実

安心して子どもを産み育てることができるよう、産前・産後等のサポート体制の充実を図ります。

施策 3 子育てしやすい環境の整備

女性の働き方やライフスタイルの変化に対応できるよう、子育てしやすい保育環境の整備を行います。また、保護者が子育てに対して抱える不安や負担を少しでも和らげるよう、子育てにかかる負担を軽減します。

教育環境の充実と学力の向上

学校教育環境の整備を行うことで、児童・生徒の自ら学ぶ意識が高いまちを目指すとともに、働く保護者を支援するため、放課後児童クラブ室の充実を図ります。

また、基礎・基本の指導の充実により、学力向上を図ることで、市外の人からも「幸手市での教育」を選んでいただけるような教育を推進します。

重要業績評価指標一覧（KPI）

項目	当初値	目標値
カップル成立数	—	累計 21 組
赤ちゃん訪問の実施率	94.5%	100%
不妊治療費助成申請者数	—	累計 150 組
保育所待機児童	0 人	0 人
防災士資格を取得した保育士数	—	6 人
発達に気になる子に対応する加配保育士の配置	—	3 人
保育の提供体制の整備	370 人	463 人
保育ステーションの設置数	—	1 箇所
放課後児童クラブ室開設	7 箇所	11 箇所
さってアフタースクール開催回数	—	累計 500 回
さってアフタースクール参加人数	—	累計 10,000 人

基本目標 4

時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

基本的方向

だれもが安心して居住することができるまちとするため、交通利便性の向上や地域医療体制の充実、市民が主体となる地域課題の解決に向けた協働の取組への支援、地域間連携を図ることにより、まちの活性化を目指します。

また、高齢化の進行に対応するため、高齢者がいつまでも生きがいを持ち、心身ともに安心して暮らすことができるよう健康づくりを支援するとともに、地域体制を整備します。

さらに、今後、予想される人口減少を見据え、公共施設のあり方を検討していきます。

数値目標

項目	当初値	目標値
幸手市に住みやすいと思う市民の割合※	60.9%（平成 24 年度）	70%（平成 29 年度）

※幸手市総合振興計画基本計画策定のための市民意識調査より

施策 1 交通利便性の向上

道路交通や鉄道、バスなどの公共交通機関の利便性を高め、市内外に円滑に移動できるまちを目指します

施策 2 地域医療体制の充実

市内の多様化する医療ニーズに対応できるよう、医師会などの関係機関と協力し、医療体制の充実を図ります。また、「とねっと」（埼玉利根保健医療圏における地域医療圏ネットワークシステム）を活用し、医療資源の効率的な運用を目指します。

高齢者の生きがいづくりと連携体制の充実

高齢化が急速に進行する中、高齢者がいつまでも生きがいを持ち、心身ともに健康で安心して暮らせるよう、健康づくりや生きがいづくりを支援します。

また、地域包括ケアシステム（高齢者が住み慣れた家庭や地域で安心して生活を続けられるように、高齢者のニーズや状態に応じ、医療や介護、見守りなどの多様なサービスが包括的に提供される地域での体制）の構築を推進し、地域での見守り体制を充実します。

施策 4 地域コミュニティの活性化・防災防犯体制の強化

少しずつ希薄化している地域コミュニティの活性化を図るとともに、市民による自助・共助を通して、地域での防災活動や防犯活動が充実し、安心して暮らせる体制づくりを推進します。

施策 5 公共施設アセットマネジメントの推進

今後、予想される人口減少を見据え、公共施設の機能の見直しや再編・集約など、時代の変化に応じたあり方を検討していきます。

重要業績評価指標一覧（KPI）

項目	当初値	目標値
市の公共交通の満足度	24.5%（平成 24 年度）	30%（平成 29 年度）
都市計画道路整備率	58.3%	79%
とねっとの登録者数	2,326 人	4,000 人
生きがいがあると思う高齢者の割合	84.1%	90%
自主防災組織の組織率	55%	65%
全避難所への授乳テントの備蓄	—	27 箇所
防災訓練の参加者数	648 人	累計 2,500 人
公共施設等総合管理計画の策定	—	策定（平成 28 年度）